

「市街地におけるミヤマガラスの飛来数調査」

調査報告書

令和8年(2026年)3月

日本野鳥の会熊本県支部

1. 調査の目的

市街地におけるミヤマガラス被害軽減対策として、忌避音声を用いた追払いを実施するにあたって、その効果を検証するために対策実施前後のミヤマガラスの飛来数等を調査するもの。

2. 調査の概要

(1) はじめに

冬鳥であるミヤマガラスは、熊本には10月半ば頃に渡来し、翌年3月頃に大陸の繁殖地へ渡去する。熊本市では夜間に集まって眠る「集団ねぐら」を形成し、昼間の採餌場である郊外の田園地帯との間を毎日行き来している。従来は、ねぐらを熊本市郊外の山林に作るが多かったが、数年前から、熊本市の中心部に集まるようになった。今回、中心市街地でねぐらを形成するミヤマガラスを対象として個体数の調査を行うこととした。

(2) 調査地点

- ①「花畑ねぐら」(熊本市中央区花畑町の花畑公園とその周辺)

(3) 調査期間

2025年11月4日～2026年3月16日

(調査期間内に「花畑ねぐら」で2回の羽数調査を行う)

(4) 事前調査の方法と結果

11月初旬から11月末にかけて事前調査を行い、「花畑ねぐら」に集まるミヤマガラスの採餌場所、飛来コース、就峙状況等を観察した。採餌場所での調査は、昼間の時間帯に行い、飛来コース、就峙状況の調査はミヤマガラスが飛来し始める、16時頃から暗くなってねぐら入りする、18時頃まで行った。

- ① 図1で示した、熊本市南部の耕作地で昼間、数百羽～1000羽単位のミヤマガラスの集団が観察された。
- ② 採餌場所 A の群れは昨シーズンまでは谷尾崎付近へ向かっていたが、今期はこのコースがほとんど見られなくなり、「田崎ねぐら」又は「花畑ねぐら」を利用していると考えられる。
- ③ 「花畑ねぐら」への飛来コースで羽数が多いのは、採餌場所 C から、南熊本駅を經由して代継橋を通るコースで、次が採餌場所 B、D からの飛来コースであった。11月20日の事前調査では B、C、D コースで合計約6000羽が確認された。
- ④ これ以外の西、北、北東からは、花畑ねぐらへの飛来は無かった。
- ⑤ 益城方面の採餌場所 E、F でも1000羽を超過する群れが観察された。以前使用されていた小山山付近のねぐらは消滅しており、E、F の群れは主に「乗越ヶ丘ねぐら」へ向かっている。
- ⑥ 「花畑ねぐら」へ飛来したミヤマガラスは、繁華街のビルの屋上で就峙までの時間を過ごすことが多かった。また、熊本市役所南側を通過して熊本城内に入り、樹木にとまっていた。

休憩する姿も見られた。

- ⑦ 最終的には、花畑公園内の樹木(主に樹齢6～700年ほどのクスの巨木)と公園周辺の街路樹(主にイチヨウ)や電線、電車通りと国道3号線の間広がる繁華街の街路樹や電線でかなりの数が観察された。繁華街のビルの屋上で夜を過ごすミヤマガラスがいる可能性もあるが、暗くて確認することは出来なかった。

以上の事前調査結果を踏まえて、本調査では表3に示した St.1～St.5 の5調査地点を設定し、早朝ねぐらから採餌場所へ向かう群れをカウントする調査方法を選択した。

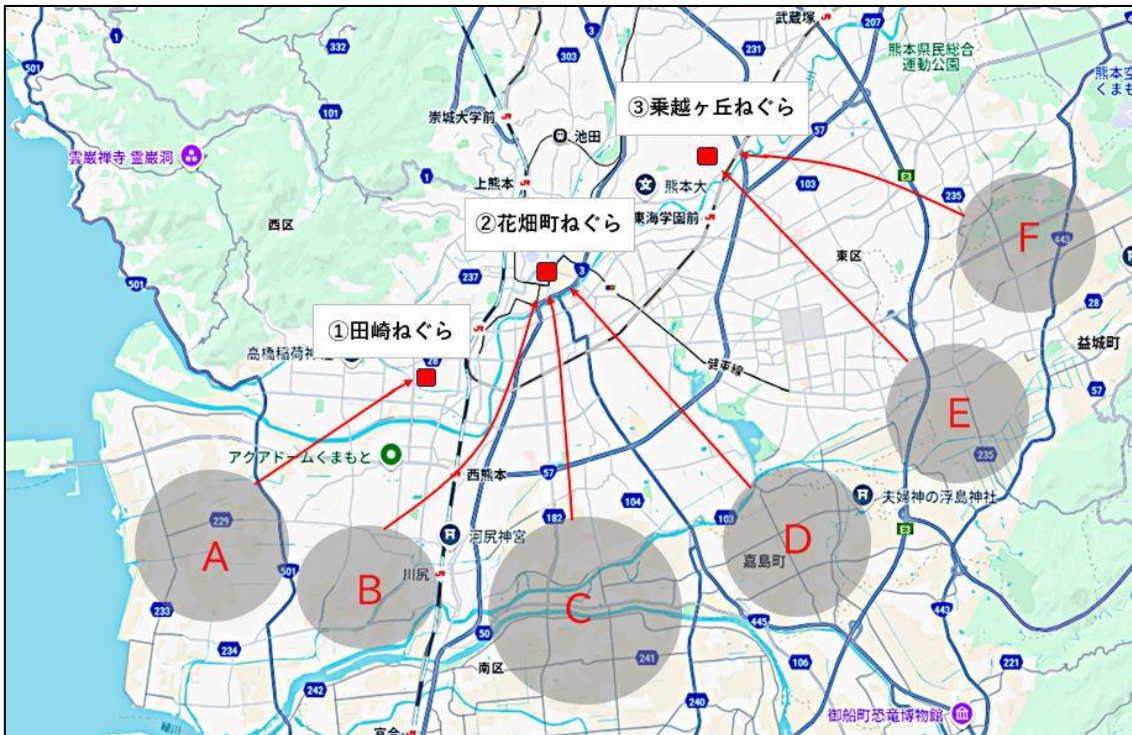


図1:ミヤマガラス事前調査 熊本市南部から東部の採餌場所とねぐらへの飛来コース

3. 調査実施状況と調査結果

(1) 調査日時

1回目および2回目の調査を以下の日時で行った。

表1:ミヤマガラス調査日時表

調査回	調査日	調査時間帯	日出時刻
1回目	2025年12月14日(日)	6:20～7:50	7時11分
2回目	2026年1月25日(日)	6:20～8:00	7時16分

(2) 気象状況

調査時の気象条件は以下のとおり。

表2:ミヤマガラス調査時の気象条件

対象	調査日	天気	気温	湿度	風速
1回目	2025年12月14日(日)	晴れ	9.7℃	70%	4m
2回目	2026年 1月25日(日)	晴れ	3.3℃	47%	1m

(3) 調査地点及び調査員の数

調査地点は、「花畑ねぐら」の南南西～東方向をカバーする5地点を St.1～St.5 と設定し、それぞれ必要人員を配置した。(表3)

朝6時半から8時頃まで、ねぐらを飛び立って餌場に向かう群れを各調査地点よりカウントした。(図2～図3)

表3:ミヤマガラス調査地点

対象	調査地点	調査範囲	調査員
1回目	St.1 長六橋1	長六橋下流	2名
	St.2 長六橋2	長六橋上流、代継橋まで	2名
	St.3 代継橋	代継橋上流、銀座橋まで	1名
	St.4 銀座橋	銀座橋上流、大甲橋まで	2名
	St.5 大甲橋	大甲橋上流	1名
2回目	St.1 長六橋1	長六橋下流	3名
	St.2 長六橋2	長六橋上流、代継橋まで	2名
	St.3 代継橋	代継橋上流、銀座橋まで	2名
	St.4 銀座橋	銀座橋上流、大甲橋まで	2名
	St.5 大甲橋	大甲橋上流	1名

(4) 第1回目調査結果

①ミヤマガラスの調査地点別個体数

表4:ミヤマガラス 調査地点別個体数(1回目)

対象	調査日	調査地点	羽数
1回目	2025年12月14日(日)	St.1 長六橋1	564
		St.2 長六橋2	4,992
		St.3 代継橋	2,809
		St.4 銀座橋	531
		St.5 大甲橋	108
			9,004

表5:ミヤマガラス 時系列個体数(1回目) 日の出、7時11分

時刻	長六橋 1	長六橋 2	代継橋	銀座橋	大甲橋	合計
6:20	40	1	6	0	1	48
6:30	65	49	20	5	0	139
6:35	0	92	60	10	9	171
6:40	0	210	81	40	7	338
6:45	7	1,069	70	112	10	1,268
6:50	28	681	19	38	3	769
6:55	52	1,144	186	50	3	1,435
7:00	203	573	1,403	8	5	2,192
7:05	76	576	622	36	0	1,310
7:10	46	309	102	0	38	495
7:15	6	47	10	45	6	114
7:20	19	132	85	28	5	269
7:25	8	66	75	53	17	219
7:30	1	33	51	30	0	115
7:35	7	8	9	61	4	89
7:40	6	2	10	15	0	33
合計	564	4,992	2,809	531	108	9,004



図2:ミヤマガラス 1回目調査「花畑ねぐら」の調査地点とねぐら立ちの方向別羽数

(5) 第2回目調査結果

①ミヤマガラスの調査地点別個体数

表6:ミヤマガラス 調査地点別個体数(2回目)

対象	調査日	調査地点	羽数
2回目	2026年1月25日(土)	St.1 長六橋1	692
		St.2 長六橋2	3,657
		St.3 代継橋	1,180
		St.4 銀座橋	588
		St.5 大甲橋	323
			6,440

表7:ミヤマガラス 時系列個体数(2回目) 日の出、7時16分

時刻	長六橋 1	長六橋 2	代継橋	銀座橋	大甲橋	合計
6:20	0		3	0	0	3
6:30	0	0	6	0	0	6
6:35	0	0	5	0	0	5
6:40	1	10	6	13	9	39
6:45	0	62	21	38	5	126
6:50	0	110	66	65	3	244
6:55	1	65	98	42	5	211
7:00	1	19	15	12	1	48
7:05	354	161	23	12	1	551
7:10	137	431	12	32	115	727
7:15	54	625	10	140	65	894
7:20	77	643	132	115	66	1,033
7:25	21	416	333	2	35	807
7:30	15	282	34	15	16	362
7:35	16	327	155	14	1	513
7:40	1	243	81	82	1	408
7:45	8	133	12	3	0	156
7:50	3	130	24	3	0	160
7:55	3	0	144	0	0	147
合計	692	3,657	1,180	588	323	6,440

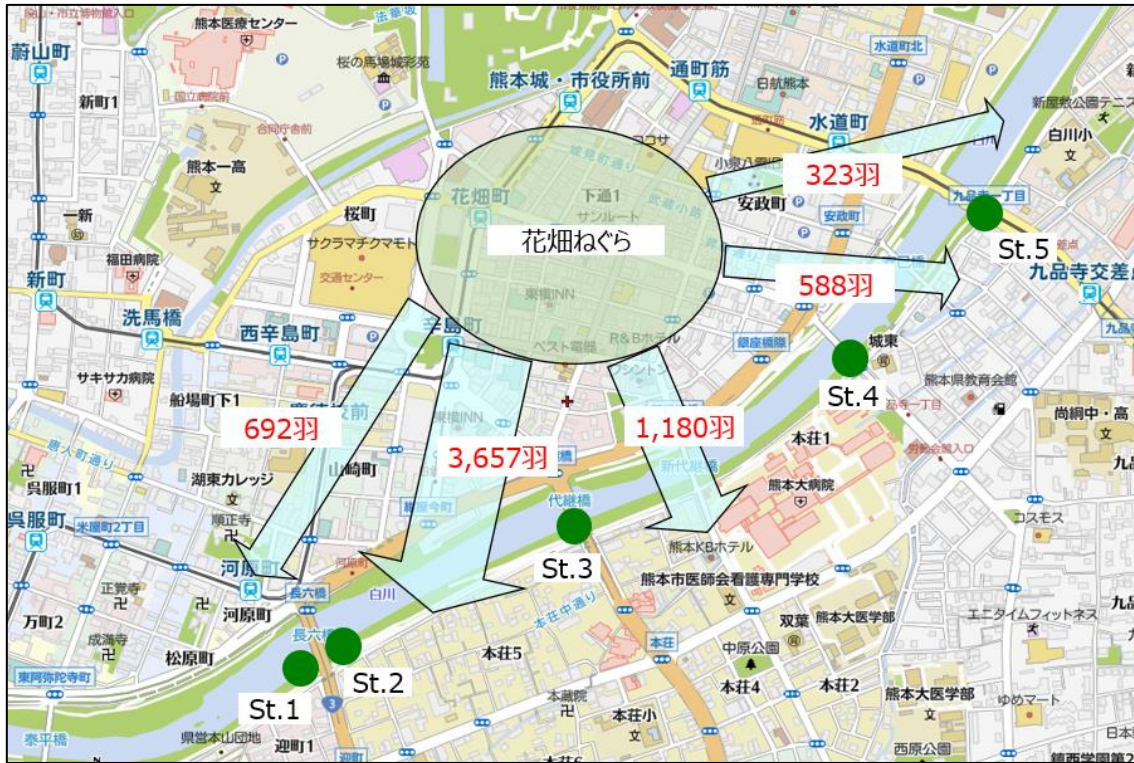


図3:ミヤマガラス 2回目調査「花畑ねぐら」の調査地点とねぐら立ちの方向別羽数

表8:ミヤマガラス 調査地点別、1回目と2回目の羽数比率

	St. 1	St. 2	St. 3	St. 4	St. 5	合計
第 1 回目調査	564	4,992	2,809	531	108	9,004
第 2 回目調査	692	3,657	1,180	588	323	6,440
比率	123%	73%	42%	111%	299%	72%

(6) 種類別の羽数

「花畑ねぐら」はミヤマガラス以外に、同じ冬鳥のコクマルガラス、留鳥のハシブトガラス、ハシボソガラス、が利用する。早朝ねぐらから飛び立っている状態でのカウントでは、これらを正確に判別することは困難である。コクマルガラス、ハシブトガラス、ハシボソガラスの羽数を推定し、ミヤマガラスの羽数を算出した。

表9:種類別の個体数

対象	調査日	(A) 総数	(B) コクマルガラス (推定)	(C) ハシブト・ハシボソ (推定)	(D) ミヤマガラス羽数 D=A-B-C
1回目	2025年12月14日(日)	9,004	540	700	7,764
2回目	2026年1月25日(日)	6,440	380	700	5,360

※第1回目調査 St. 2 でコクマルガラスを分離カウントした結果から、今シーズンコクマルガラスはミヤマガラスの群れの中に約6%含まれていると推定された。

※ハシブトガラス・ハシボソガラスは、花畑公園で夏場に観察された700羽がそのままミヤマガラスの群れに混じっていると仮定した。

4. まとめ

「花畑ねぐら」を飛び立ったミヤマガラスは、第1回目の調査が9,004羽、第2回目の調査が6,440羽であった。第1回目の羽数は、渡来後羽数がピークになる時期としては、例年通りの数である。北方の繁殖地から越冬地である熊本に飛来したミヤマガラスが、最初に使うねぐらとして「花畑ねぐら」が安定して選択されていることが窺われる。

第2回目の調査では2,500羽ほど少なくなっており、コース別では表8に示した通り St.3 でカウントした南南東へ向かう群れの羽数は半減していたが、他のコースには大きな変化は無かった。各採餌場所に、この期間大きな環境変化が生じなかった結果と考えられる。

第1回目調査と第2回目調査の間で、夕方から夜間にかけて、花畑町一帯でミヤマガラスを観察したが、花畑公園とそれに面する電車通りの街路樹ではミヤマガラスがほとんど見られなかった。多くが繁華街で夜を過ごすと考えられるが、繁華街の範囲の中でも最も北側に位置する、市役所北東側の街路樹、最も南側に位置する新栄通りの街路樹付近に大量の糞が見られた。繁華街の中でも、好む場所が年々移動していると推察される。

「花畑ねぐら」以外の熊本市内のねぐらとしては、ここ数年「乗越ヶ丘ねぐら」の羽数が増加している。11月の事前調査では、夕方1,000羽近くを観察したが、1～2月にかけて、さらに羽数が増えているようだ。「池田ねぐら」が消滅して以来、菊池・合志方面から熊本市内への飛来は観察されていなかったが、1月には少数ながら合志から「乗越ヶ丘ねぐら」へ向かう群れも見られた。現在「花畑ねぐらへ」向かう群れの中で、今後、「乗越ヶ丘ねぐら」への移動が起きるかどうか注目している。